

## 船舶事故調査報告書

平成29年2月23日  
 運輸安全委員会（海事専門部会）議決  
 委員 庄司邦昭（部会長）  
 委員 小須田 敏  
 委員 根本美奈

事故種類	衝突（消波ブロック）
発生日時	平成28年6月28日 03時55分ごろ
発生場所	島根県浜田市浜田港 浜田漁港西内防波堤灯台から真方位189°30m付近 （概位 北緯34°53.7′ 東経132°03.5′）
事故の概要	漁船103祐生丸は、入航中、消波ブロックに衝突した。 103祐生丸は、船首部外板に亀裂等を生じた。
事故調査の経過	平成28年7月11日、本事故の調査を担当する主管調査官（広島事務所）ほか1人の地方事故調査官を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等 L×B×D、船質 機関、出力、進水等	漁船 103祐生丸、19トン SN2-2886（漁船登録番号）、祐生水産有限会社 26.50m×4.44m×1.93m、FRP ディーゼル機関、809kW、平成24年7月6日 第292-50104号（船舶検査済票の番号）
乗組員等に関する情報	船長 男性 55歳 一級小型船舶操縦士・特殊小型船舶操縦士・特定 免許登録日 昭和54年6月15日 免許証交付日 平成28年2月9日 （平成33年5月15日まで有効）
死傷者等	なし
損傷	船首部外板に亀裂及び擦過傷
気象・海象	気象：天気 晴れ、風 なし、視界 良好 海象：海上 平穏、潮汐 上げ潮の中央期
事故の経過	本船は、船長及び甲板員1人が乗り組み、浜田港北北西方沖での操業を終え、船長が単独の船橋当直につき、約18ノット（kn）の速力（対地速力、以下同じ。）で浜田港に向けて自動操舵により南南東進していた。 本船は、船長が浜田市馬島北方沖約1海里（M）付近で手動操舵に切り換え、約10knの速力として航行を続けた。 船長は、浜田港内に入って減速し、約7knの速力で、浜田漁港北防波堤灯台（以下灯台については、「浜田漁港」を省略する。）の灯光を

	<p>左舷船首方に見ながら入航中、これまで北防波堤の南側海域で出航船と遭遇したことがあったので、北防波堤の西端を大きく離そうとして左転を開始した。</p> <p>本船は、船長が、北防波堤の南側海域の出航船、及び沖防波堤と西沖防波堤との間の切り通し付近の入航船の有無をそれぞれ確認しながら、北防波堤の西端を離して左転中、船首至近の消波ブロックに気付いて機関を後進にかけたものの、平成28年6月28日03時55分ごろ西内防波堤付近の消波ブロックに衝突した。</p> <p>本船は、船長が甲板員の安全及び船内への浸水の有無を確認し、異常がなかったため、浜田港の市場まで自力で航行した。</p> <p>船長は、船舶所有者に本事故の発生を連絡した。</p> <p>(付図1 事故発生経過概略図 参照)</p>
<p>その他の事項</p>	<p>本船は、6隻で構成されるまき網船団の灯船であった。</p> <p>船長は、浜田港への出入港経験が豊富であった。</p> <p>船長は、夜間、浜田港の北側から入航する際、これまで北防波堤灯台との距離を目測により確認しながら左転していた。</p> <p>甲板員は、右舷船尾部で防舷材の準備作業中、ふと前方を見たところ、西内防波堤灯台の灯光が近くに見え、慌てて声を発して操舵室に向かう途中で衝撃を感じた。</p> <p>船長は、甲板員の声には気付いたものの、その内容を聞き取れなかった。</p> <p>船長は、西内防波堤灯台の灯光を確認したかどうか覚えていなかった。</p>
<p><b>分析</b></p> <p>乗組員等の関与 船体・機関等の関与 気象・海象等の関与 判明した事項の解析</p>	<p>あり なし なし</p> <p>本船は、浜田港に入航中、船長が、周囲の出入航船の有無を確認して左舷船首方の見張りを適切に行っていなかったことから、西内防波堤に向かう態勢で左転していることに気付かず、同防波堤付近の消波ブロックに衝突したものと考えられる。</p> <p>船長は、これまで北防波堤の南側海域で出航船と遭遇したことがあったことから、周囲の出入航船の有無を確認していたものと考えられる。</p>
<p><b>原因</b></p>	<p>本事故は、夜間、本船が、浜田港に入航中、船長が、周囲の出入航船の有無を確認して左舷船首方の見張りを適切に行っていなかったため、西内防波堤に向かう態勢で左転していることに気付かず、同防波堤付近の消波ブロックに衝突したものと考えられる。</p>
<p><b>参考</b></p>	<p>今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。</p>

- |  |  |
|--|--|
|  | <ul style="list-style-type: none"><li>・ 出入航する際は、周囲の防波堤等への接近状況を確認し、常時適切な見張りを行うこと。</li></ul> |
|--|--|

付図1 事故発生経過概略図

